



押し花

前回、雑草について触れたので、今回は私の「押し花」の数々を紹介します。
雑草は毎年同じ場所に同じように生えてくるので、一度顔と名前を覚えてしまえば判別は簡単です。みなさんも、推しの雑草ができたなら、ぜひ教えてください。

【ツユクサ】

青くてとても可憐な草です。

青の色素が強いので、色水作りで遊べます。昔は染料としても使われていたそうです。

おしべとめしべの他に、「飾りおしべ」という虫を惹きつけるためだけの特別なおしべがあるなど、花の構造もとても興味深いです。

また、なんとこの草は生で食べられます。しかも、味はサニーレタスに似ていて結構おいしいです。

You tubeで料理動画もあるので、もしよければ食べてみてください。



【ハルシオン】

バンドグループBUMP OF CHICKENにこの名前の曲があったので、とても好きな花です。本や音楽がきっかけで花の名前を覚えたという人も多いのではないのでしょうか。

茎の中の道管が大きいので、食紅液で赤く染めて理科の観察に使用することもできます。

この葉っぱは飼育しているウサギが好きなので、よくとってあげています。

また、人間が食べることもできます。昨年天ぷらにして食べてみましたが、まああまあの味でした。





【キュウリグサ】

つぶすとキュウリのにおいがします。



【カタバミ】

実がオクラみたいでかわいいです。



【コバンソウ】

実がエイリアンの卵のようです。
よくちぎって投げていました。



【ハマダイコン】

抜くと根っこがダイコンそのものです。
食べましたが、すごくかたかったです。

【ガマ】

学生の時、生活科の授業研究のため学内の
自然探しの活動で発見した思い出の草です。

先がほこのようなので、「ガマほこ」と呼
ばれ、ガマほこに似ていることから、食品の
「かまぼこ」の名前がついたそうです。（昔
のかまぼこはちくわみたいだったようです）

こんなにおいしそうな見た目ですが、まだ
食べたことがありません。中はほとんど綿毛
なのでおいしくないと思っていましたが、調
べてみるとパンにして食べたり、地下茎を食
べたりできるそうです。



少し本の紹介もさせていただきます。これがきっかけに植物好きな人が増えたり、お子様と自然を通じた会話や触れ合いが増えれば幸いです。

植物はすごい - 生き残りをかけたしくみと工夫

(中公新書 2174) 新書 - 2012/7/24

田中 修 (著)

植物たちの様々な工夫を端的に分かりやすく知ることができます。身近な植物が例に挙げられているので、子どもとの会話にも使えます。

この中で出てくる温州みかんが種なしの理由は、私も子どもがみかんを食べている時によく話します。



うまい雑草、ヤバイ野草 日本人が食べてきた薬草・山菜・猛毒草 魅惑的な

植物の見分け方から調理法まで (サイエンス・アイ新書) 新書 - 2011/8/18

森 昭彦 (著)

これを読んでから雑草のことを見る視点に、「食べられるかどうか」が加わるようになりました。今回の通信にも多分に影響を与えています。意外と身の回りの大体の雑草が食べられることが分かって驚きです。



世界史を大きく動かした植物 Kindle版

稲垣 栄洋 (著)

(一応) 社会科専門なので、歴史関係の植物の本も一つ。

米、麦、ジャガイモ、コショウ、トウガラシ、茶など、歴史に影響を与えた植物について、植物学の視点から解説をしてくれます。

これで知ったことを偉そうに話したいのですが、おもしろがって聞いてくれる人が全くないのが残念です。

